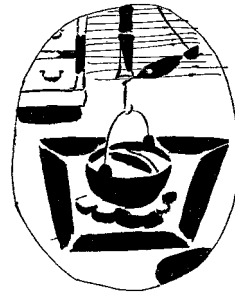


農業

平成24年12月号
会誌 No. 1566



目次

巻頭言

「ムラ」と「村」……………大杉 立 3

論壇

農村女性が活躍する仕組みづくりを……………納口るり子 4

中央農事講演会

食品中の放射性物質による健康影響について……………山添 康 6

－食品安全委員会のリスク評価－

放射性物質と食品の安全性について

放射線、放射性物質について

食品中の放射性物質に関する食品健康影響評価

質疑応答…………… 18

農業技術開発研究会

飼料稲・循環型農畜産業への取組を通じて改めて問う、耕畜連携のあり方(Ⅱ)
……………鎌谷 一也 23

オペレータはだれか

飼料稲・飼料米の評価

飼料稲・飼料米の取組

循環型畜産の実情

マネジメントシステム

飼料稲・飼料米以前

不安材料

耕畜連携の歩み

試験場技術と現場
配合調製
地域循環への取組

農業・農村の現場から

「ぐんま型」集落営農法人の課題と展望……………田中 修 36

世界の農業は今

アメリカの農業・農業政策の状況について……………勝又健太郎 44

東京農業大学収穫祭から（I）

避難生活での水の確保～首都直下地震に向けて～
……………生産環境工学科水利施設工学研究室 49

農政情報…………… 55

大日本農会だより…………… 56

編集部から…………… 56

「農業」年間総目次…………… 57

ミニ情報「女性の農業就業人口に占める割合と農業委員会・農協への参画状況の推移」
…………… 35

「農業集落の数の動向」…………… 43

本会誌電子化事業から（3）…………… 54

表紙写真説明

大根干し（宮崎県宮崎市^{たのちよう}田野町）

宮崎県宮崎市田野町は、日本一の大根の産地である。冬の寒い時期になると大根干しが始まる。町内には約300基もの大根やぐらが並ぶ。町の南に位置する鱈塚山（標高1,118m）から吹き降ろす寒風にくわえ、冬場に雨が少なく大根を傷める氷点下になりにくいという大根栽培にめぐまれた条件があるようだ。宮崎県田野物産センター「みちくさ」のホームページによると大根は、約10日～15日間干され、雨が降ればシートをかけ、気温が下がればストーブを焚くという各農家の徹底的な管理によってこの干し大根は作られている。こうしてつくられた干し大根は辛みが抜け、うま味と甘味が出るという。干し大根は、詰め物として、あるいは切干大根として全国に出荷されている。

旧宮崎郡田野町は、平成17年、隣接する佐土原町、および高岡町とともに宮崎市に編入合併した。
（写真提供：（社）地域環境資源センター）